



2022年3月17日

フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社
アウディ ジャパン
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120 - 598 - 106
アウディコミュニケーション センター

Audi A6 Avant e-tron concept：優れた航続距離と積載能力

- アウディの電気自動車 e-tron 初の Avant コンセプトモデル
- 電動化の時代に合わせた専用のデザイン
- 270kW の急速充電に対応 - わずか 10 分の充電で 300km を充電可能

(ドイツ本国発表資料) 2022年3月17日、インゴルシュタット：アウディは、2022年の年次記者会見の一環として、ラグジュアリークラスに属する近未来の電動駆動モデル Audi A6 e-tron concept を発表します。アウディは約1年前の2021年4月開催の上海モーターショーで、Audi A6 Sportback の電気自動車コンセプトモデルを発表しました。市販を前提に開発された A6 Avant e-tron concept は、先駆的な駆動テクノロジーとアウディを象徴する伝統的な Avant デザインを巧みに組み合わせています。

2021年に発表された Audi A6 e-tron concept と同様に、A6 Avant も、アウディのリーダーシップの下で開発された、未来を見据えた PPE プラットフォームに基づく専用の電気駆動システムを採用しています。同時に A6 Avant e-tron concept は、Audi A6 e-tron concept と同じディメンションです。ラグジュアリークラスに属するこのコンセプトカーの寸法は、全長 4.96m、全幅 1.96m、全高 1.44m で、そのラインはアウディの現代的なデザイン言語を採用しています。クローズド シングルフレーム、横幅一杯に広がるリアライトストリップなどの主要なデザイン要素は、アウディの電気自動車 e-tron シリーズとの関係性を強調しています。

2022年3月に公開された Audi A6 Avant e-tron concept のエクステリアの造形は、Sportback と同様、シンプルなデザインを特徴としています。そのボディラインとエレガントなプロポーションは、将来の市販モデルを予告するもので、アウディブランドの電動ラグジュアリークラスがどれほどダイナミックでエレガントなクルマになるのか、そのヒントを提供します。

AUDI AG 技術開発担当取締役のオリバー ホフマンは、次のように述べています。「私たちは、Audi A6 Avant e-tron concept により、新しい PPE テクノロジープラットフォームをベースにした将来の市販モデルの具体的な姿を提示します。私たちは、45年のサクセスストーリーを誇る Avant を、ただ単に電動化しただけではありません。何よりも必要なのは、高度なテクノロジーを採用して、人々に感動を与えることです。特に、これにはパワフルな 800V のテクノロジー、急速充電 270kW への対応、WLTP に基づく一充電走行距離 最大 700km の航続距離が含まれています」

A6 のエンブレムが示すように、このコンセプトカーは、ビジネスクラスに属していることを明確に強調しています。1968年に登場したこのモデルファミリーは(1994年までは Audi 100 という名称で販売)は、世界最大のボリュームセグメントにおけるアウディを代表するクルマの1台です。1977年以来、シリーズには常に Avant モデルが設定されてきました。Avant は、革新的で非常にエモーショナルな方法で、ステーションワゴンに再解釈したモデルです。

ダイナミックなラインと非常に優れた多用途性を備えた Avant は、まったく新しいカテゴリーを生み出し、その後、競合他社は次々のこのコンセプトに追従するモデルを発表しました。「Avant garde」(アバンギャルド)と1995年にアウディが広告で使用していたスローガンの造語である Avant は、発売され

ると同時に高い人気を博し、Avant は、美しいステーションワゴンの代名詞として認知されるようになりました。

今回、PPE テクノロジーを採用することにより、長距離走行に使用するクルマとしての実用性を備えながらも、ダイナミックなドライビングパフォーマンスを全身で表現することが可能になりました。将来的に市販される Audi A6 e-tron は、最大 700 km (WLTP 基準) の一充電走行距離を誇ります。また、シリーズでもっともパワフルなモデルは、0~100km/h をわずか 4 秒未満で加速します。Sportback と Avant の性能の差はごくわずかとなっています。

広々として美しい Audi A6 Avant のリアエンドは、単に優れた積載容量を特徴としているだけではありません。その駆動システムとバッテリーテクノロジーも注目に値します。800V のシステムと最大 270kW での充電に対応することにより、急速充電ステーションでわずか 10 分間充電するだけで、約 300km を走行することができます。

紛れもない e-tron : デザイン

Audi A6 Avant e-tron concept は、ラグジュアリークラスに属するクルマで、全長 4.96m、全幅 1.96m、全高 1.44m の寸法は、現行モデルの Audi A6/A7 シリーズと同じです。そのダイナミックなプロポーション、エレガントなライン、そしてアウディブランドの特徴となっている Avant のリアエンドデザインを見れば、このクルマが風洞実験室から生み出されたことは一目瞭然です。

エアロダイナミクスは、ラグジュアリークラスにおけるアウディの長い成功の歴史において、常に重要な役割を果たしてきました。第 3 世代の Audi 100/C3 が達成した Cd 値 (空気抵抗係数) 0.30 は、その当時のすべてのクルマの中で最高の数値であり、現在でも自動車史における伝説となっています。アウディは、1982 年にはすでにライバルから抜きん出た存在となっており、その後何年もの歳月を経た現在でも、リーダーとしての存在感を示しています。

今回新たに発表される電気自動車ファミリーの Audi A6 e-tron concept は、機能と形態を再び完璧に融合することによって、このサクセスストーリーに新たな章を追加します。Cd 値 0.22 は、C セグメントに属する電気自動車としては、前例のない優れた数値です。伸びやかなルーフラインにより、Avant の Cd 値は、それをさらに 0.02 上回っており、空気抵抗が極めて少ないことを意味しています。これによって、電力消費量を削減し、航続距離を伸ばすことが可能になります。同時に、風洞実験室でファインチューニングが行われたことにより、非常にエレガントで細部に至るまで調和の取れた、有機的なデザインが生み出されました。

22 インチの大径ホイールと短いオーバーハング、フラットなキャビン、そしてダイナミックなルーフラインは、スポーツカーを連想させるプロポーションを提供します。

明確なエッジが存在しないデザインにより、凸面と凹面がスムーズにつながり、ボディパネル全体にソフトな陰影がもたらされています。Audi A6 e-tron concept は、特に側面から見ると、あたかも一つの大きな塊から削り出したように見えます。

緩やかなスロープを描くリアサイドウィンドーのデザインと傾斜した D ピラーは、Avant モデルの典型的な特徴です。D ピラーは、ショルダーラインから上方へと立ち上がり、流れるようなラインを描きながらリアエンドへとつながっています。印象的な quattro ブリスターは、ボディの幅広さを強調すると同時に、ボディサイドに有機的な曲面を形成しています。

前後のホイールアーチは、彫刻的な造形のロッカーパネルで接続されています。ブラックのインレイが

特徴的なこのロッカーパネルは、この位置にバッテリーが搭載されていることを示し、アウディブランドの電気自動車 e-tron を象徴するデザイン要素となっています。また、Audi e-tron シリーズと同様、A ピラーの基部には、先進的なカメラベースのバーチャルエクステリアミラーが装着されています。

フロントから見ると、Audi A6 e-tron concept は、アウディブランドの電気自動車であることがすぐに分かります。そのハイライトは、ドライブトレイン、バッテリー、ブレーキを冷却するためのエアインテークを左右に備えた、大型のクローズド（閉じられた）シングルフレームグリルです。フラットなヘッドライトベゼルは、フロントエンドの側面まで伸び、水平基調のボディラインを強調しています。

風洞実験室から生まれた空力効果は、リアエンドに明確に表れています。アッパーリヤエンドは、空気の流れを切り裂くようなデザインが採用されています。カラートリムを備えたリアスポイラーは、A6 Avant e-tron concept の水平基調のシルエットを視覚的に強調しています。さらに、このスポイラーは、エアロダイナミクスを改善するために重要な役割を担っています。

下部セクションでは、大型リヤディフューザーのエアアウトレットが、バンパーエリアと統合されています。カラートリムを採用したこれらのコンポーネントは、風の流れを整えながら、エアフローを車両の下へと導きます。これらの完璧な組み合わせにより、空気抵抗が低減し、リフトが最小化されます。

ショーモデルのスポーティなシルエットは、ネプチューンバレーと呼ばれる温かみのあるグレーの色合いによって強調されています。このボディカラーは、日陰ではモダンで控えめな外観を特徴としていますが、太陽の下では顔料の効果が最大限に発揮され、光の当たり方によってさまざまに色合いが変化する柔らかいゴールドカラーで見る者を魅了します。

あらゆる視点から考え抜かれた照明 - ライトテクノロジー

フラットなヘッドライトとテールライトは、スリムなデザインを特徴とし、ボディと同じ高さに設置されています。デジタルマトリクス LED とデジタル OLED テクノロジーにより、少ない表面積でも最大の明るさと幅広い機能を実現しています。また、ライトシグネチャーをカスタマイズすることも可能になりました。アウディのライティングデザイナーと開発者のチームは、再び素晴らしい仕事を成し遂げました。このコンセプトカーのライティングユニットには、数多くの新しい機能とパーソナライズオプションが組み込まれています。

ボディの側面には、小型で高解像度の 3 台の LED プロジェクターが装着され、ドアを開くと、地面が光のステージに変化します。ここでは、ダイナミックな光の効果が地面に投影され、乗員に母国語で挨拶します。

安全機能と美しいデザインを組み合わせることは、アウディにとって常に重要な要素となっています。そのため、小型の高解像度プロジェクターは、地面に警告マークも投影します。たとえば、ドアを開こうとしている場合は、後方から近づいてくるバイクに警告を表示します。

さらに、車両のコーナーにも、別の 4 つの高解像度 LED プロジェクターが目立たないように組み込まれ、ターンシグナルを地面に投影します。これらのプロジェクション機能は、必要に応じて、さまざまな市場や認証条件に対応するように変更することが可能です。

デジタルマトリクス LED フロントヘッドライトは、動画を投影する機能も備えています。たとえば、Audi A6 Avant e-tron concept を、目の前が壁になっている駐車スペースに止めて充電する場合、ドライバーと乗員は、壁に投影されたビデオゲームを楽しむことができます。それぞれのゲームの仮想風景は、インストルメントパネルの小さなディスプレイではなく、XXL 形式で壁に投影されます。これらの機能は、デ

デジタルマトリクス LED フロントヘッドライトを介して表示されます。

このコンセプトカーのリアエンドには、連続したライトストリップとして、新世代のデジタル OLED エレメントが採用され、ディスプレイのように機能します。また、デジタルライトシグネチャーやダイナミックライティングディスプレイを、オーナーの好みに合わせてほぼ無制限にカスタマイズすることも可能です。

テールライトの新機能の 1 つは、ボディ形状に合わせたデジタル OLED エレメントの 3 次元アーキテクチャーで、夜間にボディ全体のデザインが映えるようなライティングデザインが可能になっています。これにより、以前のようにダイナミックな 2 次元の光のショーを演出できるだけでなく、印象的な 3D 空間効果を体験することができます。

当然のことながら、テールライトとヘッドライトは、その本来の役割を完璧に果たします。たとえば、ヘッドライトは、開発者の要件を完全に満たし、さまざまな交通状況、天候、環境にインテリジェントに適合して路面を明るく照らし出し、他の道路ユーザーとコミュニケーションを取ることもできます。超高輝度、均質、高コントラストのデジタル OLED コンビネーションテールライトは、未来の道路における安全性を特に大幅に向上させることができます。

さらに、車両の周囲に映像を投影することにより、従来の枠組みを超えたコミュニケーションが可能になっています。A6 e-tron concept は、インテリジェントなコネクティビティ機能により、他の道路ユーザーに視覚的なシグナルを表示して情報を提供します。

PPE - SUV と乗用車の両方に採用可能

PPE は電気自動車専用に設計されているため、このテクノロジーのメリットを最大限に活用することができます。A6 e-tron concept の Avant バージョンおよび将来登場する PPE をベースにした車両の重要な特徴は、前後アクスル間に搭載された約 100kWh のバッテリー容量です。車両ベース全体を有効に活用することで、比較的フラットなバッテリーレイアウトを実現できます。これは、この単一のプラットフォームを、基本的な構成を変えることなく、車高の高い SUV モデルだけでなく、Audi A6 Avant をはじめとする車高の低いダイナミックな乗用車にも使用できることを意味しています。

PPE 車両のバッテリーサイズとホイールベースは柔軟に変更することができるため、さまざまなセグメントの車両に採用することができます。長いホイールベースと非常に短いオーバーハングの比率は、すべての車両に共通する要素ですが、大径ホイールと組み合わせることによって、デザイン面だけでなく、基本的なプロポーションの面でも、スポーティなスタイルを創出することが可能です。PPE モデルの長いホイールベースにより、乗員コンパートメントには、広々としたスペースが生み出されます。これは、あらゆるセグメントにおいて大きなメリットとなります。さらに、技術面から見ると、電気自動車はトランスミッショントンネルを必要としないため、一般的に内燃エンジン搭載車よりも広いスペースが生み出されます。

トランスミッショントンネルがなくても、アウディのオーナーは、quattro ドライブシステムを選択することが可能です。近未来の PPE モデルには、フロントおよびリヤアクスルにそれぞれ 1 基の電気モーターを搭載したバージョンが用意され、電気モーターを制御することによって、ドライビングダイナミクスとエネルギー効率の完璧なバランスを取りながら、オンデマンドの 4 輪駆動システムを実現します。さらにこの e-tron ファミリーには、エネルギー消費量と航続距離を最適化したベースバージョンも用意されます。この場合、1 基の電気モーターがリヤアクスルに搭載されます。

Audi A6 Avant e-tron concept の 2 基の電気モーターは、350kW のシステム出力と 800Nm のトルク

を発生することができます。

サスペンションは、フロントには電気自動車用に最適化された 5 リンク式サスペンションが、リアにはマルチリンクタイプのサスペンションが採用されています。さらに、このコンセプトカーは、アダプティブダンパーを備えた、アウディエアサスペンションも装備しています。

A6 Avant e-tron - 優れた航続距離

Audi A6 Avant e-tron concept（および将来登場する PPE モデル）の技術的なハイライトは、800V の充電テクノロジーです。Audi e-tron GT quattro と同様、急速充電ステーションを利用すれば、最大 270kW の出力で、非常に短時間で充電することが可能です。アウディは PPE とともに、この革新的なテクノロジーを、ミッドレンジおよびラグジュアリーセグメントの量産モデルに初めて導入します。

これにより A6 Avant は、その広々とした荷室だけでなく、優れた航続距離も特徴としています。PPE テクノロジーは、従来の内燃エンジン搭載モデルに燃料を補給する場合と同じくらいの時間で、バッテリーを充電することが可能になります。300km 以上を走行可能なレベルまでバッテリーを充電するのに必要な時間は、わずか 10 分間です。また、25 分以内で、バッテリー容量を 5% から 80% まで充電することができます。

駆動システムと出力により異なりますが、Audi A6 e-tron ファミリーの一充電航続距離は 700km を超えるため、長距離走行に適しています。このモデルの一充電航続距離と充電時間は、内燃エンジン搭載モデルに近づいており、短距離走行から休暇を利用したロングドライブに至るまで、あらゆる用途に最適なユニバーサルカーに仕上がっています。

Audi A6 e-tron concept は、ダイナミックな走行特性の面で、他の電気自動車と同様に、エンジン搭載車を凌駕しています。電気モーターは、走り出した瞬間から力強いトルクを発生することが可能なため、高い効率を追及したエントリーモデルでさえ、0~100km/h を 7 秒未満で加速することが可能です。また、最上位のハイパフォーマンスモデルでは、わずか 4 秒未満で 100km/h に到達します。

PPE - 優れた多用途、柔軟性、電動化

アウディ初の電気自動車 Audi e-tron は 2018 年にデビューしました。以来アウディは体系的かつ迅速に電動化モデルを導入してきました。Audi e-tron および Audi e-tron Sportback に続き、Porsche AG と共同開発した J1 パフォーマンスプラットフォームを採用するダイナミックな電気自動車 Audi e-tron GT quattro が 2021 年 2 月にデビュー。そのわずか 2 ヶ月後、Audi Q4 e-tron および Audi Q4 Sportback e-tron が発表されました。コンパクトセグメントに導入される、このユニークな電動 SUV モデルは、フォルクスワーゲングループ共通の MEB プラットフォームをベースにしています。

Audi A6 Sportback e-tron および Avant concept は、アウディのリーダーシップの下で Porsche AG と開発した、PPE を初めて採用したモデルです。

PPE はこれまでに例のない幅広いモデルに対応できるように設計されたプラットフォームです。最初に Audi A6 シリーズが属する C セグメントで採用され、ここには SUV や CUV も含まれています。PPE プラットフォームをベースにしたアウディの量産モデルは、2023 年の後半から順次市場に導入される予定です。

その後 PPE の採用は B セグメントにも拡大される予定です。B セグメントは長きに渡り、アウディにとって最も販売台数の多いセグメントです。さらにこの PPE は、最上位の D セグメントでも、優れた技術プラットフォームとして利用することが可能です。

このようにアウディは、PPE の採用により幅広く魅力的な電気自動車を提供できるようになります。その好例が Avant モデルです。アウディは、量産セグメントである B および C セグメントに車両を投入することで、電気自動車のラインナップを効果的に拡大。スケールメリットにより、ラグジュアリークラスのテクノロジーと多様なモデルバリエーションを、プレミアム市場において展開することが可能になります。

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。